

西秋：分担者はどんな研究をしているのか？

宮下：津村先生はコインの分析。ローマ時代のコインの割合。パルティアのコインの割合からその勢力範囲を調べている西藤はパルミラの墓制。男女によって違いが見られるので、子供をもたなかった若い嫁が実家の墓に入るといったことが当時もあるのかなど。

藤井：それが基層ということ？

宮下：そうだ。ヒツジの骨が女性に埋葬されたりしておもしろいなど。

藤井：それはユダヤ教なのでは。

西藤：ヒツジの長指骨がみつかっている。

松本：かかとの骨？

宮下：かかとの上。

西藤：人骨ばかりではなく、動物の骨もこれからはチェックしていきたい。

西秋：現在のベドウィンの副葬品はどうか。

藤井：彼らは何も副葬しない。ところで、「基層」というのはどのようにわかるのか。

西藤：墓内での位置やDNAなど。若い女性のところでとぎれるかも、といったこと。

藤井：パルミラの墓で実証されているわけではない？

西藤：そう。これから調べたい

西秋：美術史的に「基層」を解明するのは？

宮下：それは難しい。子供の像があるところには親の墓があったりという関係は見出すことができる。幼くして死んだ子供だけは全身像で、体だけ大人だったりする。

藤井：「基層」というのはなんとなくわかるのだが、「再編」とは何か。

宮下：町などはローマ的だが、外来要素でないものも存在する。それを考えるということ。

藤井：それが再編という意味か。

宮下：それがローマ的なものばかりではないということ。墓があるのはパルミラだけなので、そこで外来の要素と土着の要素がどのように関係しあっているのか

常木：現代西シリアでも子供がいなかったら、実家に帰して埋葬するらしい。現在の西アジア各地の習慣を各班が聞き取り調査などして調べてきて、来年この場で報告するというのはどうか？

辻村：テラコッタ像は、一般人ではなくて神を表現したものなのか。エジプトでは家の祠に、ギリシア・ローマでは副葬品として扱われたが、パルミラではどのように扱われたと考えるか。

宮下：神を表現している場合が基本である。ギリシア・ローマでは一般人が表現される。家の祠や台に置かれたと考えられる。